

川崎市国際交流協会会長賞受賞作品

「小さなことから大きな夢へ」

東生田小学校 5年 中田 莉世

話しかけようかな、やっぱりやめておこうかな、他にもあの人の周りには大人の人がいるから助けてくれるかな、という少しもどかしい思いを、川崎の町の中で困っている外国の人を見かけて感じてしまうことがよくあります。

私は小さいころから、お父さんの仕事で台湾・上海・香港とアジアの国の三つの都市に住んでいました。その三つの都市では私のような外国から来た人がいても、なにも気にかけないけれど、私が困っていると、おせっかいに思ってしまうほどでいねいに、やさしく助けてくれました。上手に日本語ができるわけではないのに、ジェスチャーを使ったり、カタコトの英語や紙にかいたりして教えてくれました。いつもありがたいな、優しいなと感じていました。でも川崎の町の中で見かける、困っている外国の人を助けている日本人はあまり見かけません。私が外国に住んでいたとき、おせっかいなくらいでいねいに助けてくれたことは、不安な外国ではとてもありがたく感じました。きっと、日本に來ている外国の人と同じ気持ちをもっていると思います。とくに、初めて日本に來た人や、これから日本でくらす人、国際結婚もふえてきているのでおよめさんとして日本に住む人はなおさら不安だと思います。

私には、産婦人科医になりたいという夢があります。なので産婦人科に関わる本を読むようにしていますが、その中で神奈川県で生まれてくる赤ちゃんの約十九人に一人が、お母さんが外国の人だと書いてありました。今後どんどんふえていくそうです。私はそのことを知って、日本で赤ちゃんを生む外国の人はたくさんいるんだなと思いました。そして、勇気があってカッコいいなと思いました。なぜなら、自分の国とは言葉や、宗教・文化もちがうのに、この日本で勇気をもって赤ちゃんをうむことを決意したということがすごいと思ったからです。私のように外国の人に話しかけようか、やめておこうかということで迷っていることが情けなく思ってしまうほどです。

このことから、私は一つの大きな夢をもちました。今から日本で赤ちゃんをうむ外国の人がふえていくと、不安な気持ちで出産する人がふえるということだと思います。だから、私はせつかく日本で勇気をもって出産することを決めたのだから、そのおもいを一生けん命うけとめて、にんぷさんが安心して出産にのぞめるようにできる、たのしくて、しんらいできる産婦人科医になりたいです。

そのために、外国語の勉強はもちろんですが、町の中で困っている人を見たら、声をかけるという小さなことから始めて、二〇二〇年の東京オリンピックで自分なりにいろんなことにチャレンジして、自分の夢へつなげられたらいいなと思います。